

## TOPIC

## チーム医療を学ぶ3学部合同授業を開催しました



### 保健科学部 設置後初開催

実際の医療現場に近い形で多職種による実践的なカンファレンス(症例検討)を医学部、看護学部、保健科学部合同で実施

令和6年9月24日(火)、本学福島駅前キャンパスで、保健科学部設置以来初めての3学部合同のチーム医療を学ぶ授業が開催されました。

実際の医療現場に近い形式で多職種による症例検討カンファレンスを行い、職種ごとの課題や多職種連携の重要性を学び、チーム医療に貢献できる人材育成を目的としています。

今回の授業では、3学部の4年生350名が60グループに分かれ、最大6職種によるチームカンファレンスを実施しました。

グループごとに各職種の視点でディスカッ

ションし、治療方針やケア計画をまとめて発表しました。学生たちは熱心に議論し、実践的な学びを深めました。

### 医療系総合大学の 強みを活かした横断的な学習

保健科学部長の矢吹省司教授は、「医療系総合大学の強みを活かし、現場で役立つ横断的な学習を今後も進めたい」と述べました。

チーム医療は、より安全で効果的な治療を提供するために、専門家同士が協力して患者に最適なケアを提供する重要なアプローチです。

### 学生生活を通して入学時から 3学部交流が始まる

本学では、医学部、看護学部、保健科学部の学生が、これまでクラブやサークル活動、さまざまなイベントを通じて、お互いの価値観を理解し、尊重しながら交流を深めてきました。このことは、医療系総合大学ならではの大きな強みです。

これからは、授業を通じてそれぞれの専門職を理解し合い、チームとして協力して患者さんに包括的なケアを提供する方法を学びます。この強みを活かし、チーム医療に貢献できる人材を育成してまいります。



## REPORT

## 小宮ひろみ先生(前本学教授)が女性の健康総合センター センター長に就任



令和6年10月1日(火)、国立成育医療研究センターは、「女性の健康総合センター」の開所式を行い、センター長に小宮ひろみ前本学附属病院性差医療センター部長・教授が就任しました。

女性の健康総合センターは、女性の健康や疾患について、ライフコースごとに多面的・包括的な分析を加え、病態の解明・治療・予防に向けた研究

と、性差医学・医療を推進するために設立されました。

小宮ひろみセンター長は、「日本の女性が健康で生き生きと自分らしく生きることができる時代を支える医学・医療の創出と実装につなげたい。その為にも司令塔機能を果たせるように努めたい」と抱負を述べました。



# 福島医学会シンポジウム 子宮頸がんを防ぐために -これからの私のために今できること-

令和6年9月5日(木)、福島医学会は本学光が丘キャンパスで「子宮頸がんを防ぐために—これからの私のために今できること—」と題したシンポジウムを開催し、オンラインを含め約100人が参加しました。

このシンポジウムは、子宮頸がん予防ワクチンのキャッチアップ接種について、対象者やその家族に正しい情報を提供し、ワクチンの必要

性を広めることが目的です。

また、HPVワクチンだけでなく、子宮頸がん検診の重要性を再確認し、予防への意識を高める機会としました。

本学からは、産科婦人科学講座山口明子准教授が、ワクチン接種や検診による早期発見の重要性について説明しました。

また、保健科学部長であり疼痛医学講座矢吹

省司教授が接種後の症状について解説しました。

その後、同講座添田周教授、加藤麻美助手を交えて、本学医学部や看護学部、保健科学部の学生と、桜の聖母短期大学、福島学院大学の学生によるパネルディスカッションが行われ、「男女問わず情報を共有することが大切」「正しい情報を知るために授業で取り上げてほしい」などの意見が活発に交わされました。



本学地域産婦人科支援講座  
本多つよし教授がHPVワクチンや  
子宮頸がん検診の重要性について、  
専門医の立場から動画で解説



## NEWS 令和6年度看護師特定行為研修 指導者講習会を開催

令和6年9月8日(日)、本学看護師特定行為研修センターは、「看護師の特定行為研修」の指導者を対象にした講習会を開催しました。

特定行為研修は、医師の補助業務として特定の医療行為(以下、特定行為)を自らの判断で実践できる看護師を養成することを目的としています。研修では、医師・特定行為研修を修了した看護師・その他の医療専門職が、看護師を指導することになるため、指導者の育成・理解促進に加え、研修制度の普及が重要です。

今回の研修会には、県内外の医師や看護師、薬剤師ら36人が参加しました。事前のe-ラーニングで研修

制度や研修の指導・評価法を理解し、講習会当日は、現地に集合し、多職種で構成したグループでのディスカッションを通して、特定行為研修を修了した看護師の役割や研修での指導のあり方について理解を深めました。

本学の看護師特定行為研修センターでは、他に「特定行為普及啓発講習会」や研修修了者を対象とした「フォローアップセミナー」も開催しております。今後も、特定行為研修制度の理解促進、臨床現場で活躍できる特定行為看護師を養成するために、多方面から地域に貢献してまいります。



## NEWS 保健科学部作業療法学科で高校生向けの ワークショップ「おきゅらぼ」を開催

保健科学部作業療法学科は、令和6年9月15日(日)に高校生を対象とした3Dプリンターを使ったワークショップ「おきゅらぼ(Occupational Laboratory)」を開催しました。

これまで「おきゅらぼ」は、学生と教員が集まり、3Dプリンターやeスポーツを楽しむ課外活動として定期的に

開催されてきました。今回のワークショップでは、作業療法学科の学生が3Dプリンターの使い方を高校生に教え、一緒に「自助具」を作成しました。

このワークショップの目的は、高校生に作業療法の理論やアプローチを伝え、患者さんの生活をサポートする方法に興味を持ってもらうことです。

学生たちは、高校生と共に歯磨き粉を出しやすくする道具や、ストローを固定する道具を設計し、3Dプリンターで作成する体験を提供しました。

同学科の川又寛徳講師は「自助具で患者のストレスが軽減される。作業療法士の役割を多くの方にとっていただきたい」と述べました。